

住民意見募集における意見と対応

1. 県民意見募集手続きの概要

「那賀川河川整備計画」の策定に当たり、静岡県の「情報提供の推進に関する要綱」に基づき、河川整備計画（原案）を公表し、住民意見を募集した。また、流域住民を対象とした意見交換会を令和8年3月10日に開催した。

(1) 意見募集の期間

令和8年3月13日（金）～令和4月13日（月）

(2) 意見の提出方法

持参、郵送、FAX、電子メール

(3) 河川整備計画（原案）の公表及び周知の方法

① インターネットによる公開

・静岡県ホームページ

② 河川整備計画（原案）の縦覧

・下田土木事務所 企画検査課

③ 河川整備計画（原案）の意見募集の概要版チラシの配布・回覧

河川整備計画（原案）の意見募集について、概要版チラシを作成して、松崎町の流域町内会内にある組へ配布、回覧した。

前面

あなたの声を聞かせてください！

那賀川水系河川整備計画（原案）パブリックコメント募集

将来の那賀川をみんなで考えよう

河川整備計画とは？

河川法に基づき、「治水」、「利水」、「環境」についてバランスのとれた自然豊かな川づくりを進めるため、地元の声を反映しながら河川整備（工事及び維持）の内容を定める河川整備計画の策定を進めています。

那賀川水系ではこれまでに4回の流域委員会を開催し、流域と河川の概要、河川整備の目標、河川整備の実施について議論してきました。

このたび、河川整備計画（原案）を取りまとめましたので、県民の皆様から広く意見を募集します。

治水 **利水** **環境**

パブリックコメントについて

意見の募集期間：令和8年3月13日（金）～4月13日（月）

意見の提出方法：氏名、住所及び連絡先（電話番号等）を明記の上、意見書（様式自由）にて、持参、郵送、ファクシミリまたは電子メールのいずれかの方法で提出してください。

※氏名、住所及び連絡先（電話番号等）は必ず書いてください

意見書の提出先：下田土木事務所 企画検査課

①持参または郵送の場合：〒415-0016 静岡県下田市巾着531-1

②ファクシミリの場合：0558-24-2162

③電子メールの場合：shimodo-kikaku@pref.shizuoka.lg.jp

▼3月13日から公開されます

→原案の内容について意見交換会も開催します！

裏面に河川整備計画の概要版を掲載しています。ぜひ裏面もご覧ください！

静岡県下田土木事務所企画検査課 メール：shimodo-kikaku@pref.shizuoka.lg.jp

電話番号：0558-24-2113 FAX番号：0558-24-2162

※本チラシに使用している画像の一部には、生成AIを使用しています。

裏面

那賀川水系河川整備計画（原案）の概要

現状と課題

治水

- 既往洪水の中でも昭和51年7月10日の豪雨では、死者2名、床上浸水166戸などの被害が発生し、災害復旧を実施した。
- 現況河道は多くの区間で年超過確率1/5（5年に1回の大雨）を下回っている。
- 近年、家屋浸水被害があった平成17年、平成20年、平成21年の被害は、排水路の排水不良による内水氾濫が浸水の主たる浸水要因と推測されている。
- 津波に関しては、安政元年（1854年）に発生した安政東海地震で、沿岸部に高さ3m程度の津波が到達した記録が残っている。
- 「計画津波」は那賀川の河川内を約1.2km以上遡上するとともに、「最大クラスの津波」では、河川及び海岸堤防を越え、沿岸部で最大約70.0ha以上が浸水すると想定されている。

環境

- （絶滅危惧1B類（EN））などの希少種が確認されている一方、カマツカ、特定外来生物のアメリカザリガニなど外来種の生息も確認されている。
- 冬季には河口部の汽水域において、松崎町特産であるカワブリが生育している。

利水

- 那賀川水系の流水は、農業用水として慣行水利36件が届出されている。
- 流域内の各河川には漁業権が設定され、地元の漁業協同組合によりアユ、アマゴの放流が行われており、春から夏にかけて釣り客も多数訪れている。

河川整備の目標（整備対象期間は今後概ね30年間[※]）※必要に応じて見直しを行う

治水

- 洪水については、近年の浸水被害の要因、治川の状況等を踏まえ、河川の洪水の流下能力を最大限発揮できるよう、**流下断面を維持すること**を目標とする。
- 近年、流域内で発生している内水被害に対しては、**支川や水路の管理者である松崎町と連携し、内水氾濫による浸水被害の軽減を図る**。
- 河川津波対策に関しては、発生頻度が比較的高く、発生すれば大きな被害をもたらす「計画津波」に対して、人命や財産への被害リスクを低減させるため、海岸等における防衛と一体となって、津波被害を軽減するものとする。

環境

- 多様な動植物が生息・生育している那賀川の自然環境を踏まえ、河川における上・下流の連続性の確保や、カワブリが生育できる浅場の保全などに対して最大限に配慮し、河川が有する自然の営力を活用して河川本来の多様な動植物が生息・生育している**水辺環境の保全**を図る。

利水

- 引き続き河川の流況の把握に努め、農業用水などの既存の水利用や動植物の生息・生育環境、景観などに配慮しつつ、松崎町や地域住民と連携して家庭等の汚濁負荷の一層の削減を目指す。
- 森林などの多面的機能の保全についても関係機関と連携した取組を促進して、**健全な水循環系の維持**を目指す。

※津波対策水門イメージ図は、現時点のイメージのため、今後詳細な検討を進める中で変更になる可能性がある

河川名	工種	目的	区間	主な整備内容
那賀川	津波対策水門	津波対策	河口	水門設置

計画の詳細はホームページでご覧いただけるほか、松崎町役場や下田土木事務所にて計画（原案）を閲覧いただけます。

2. 意見等の提出状況

意見、要望、質問等の概要を以下に示す。

(1) 意見の提出状況

意見募集により提出された件数（通数）を以下に示す。

表1 意見提出区分（意見交換会での意見を除く）

提出方法	件数（通数）	備考
書面（持参）	0	
書面（郵送）	1	
FAX	0	
メール	3	
口頭	0	
計	4	

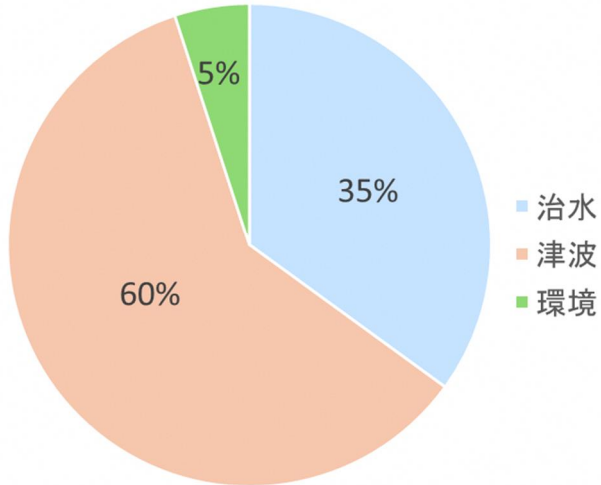
(2) 提出された意見等の内容

意見募集により、提出された意見と、意見交換会で出された意見には、様々な意見が含まれているため分類した。

表2 意見等の分類（意見交換会の意見を含む）

提出方法	治水	津波	環境
書面	1	1	0
FAX	0	0	0
メール	3	1	1
口頭	3	10	0
計	7	12	1

【提出意見数：20件】



図－1 意見の分類

No	分類	意見を いただいた方法	意見	対応	整備計画 修正 の有無	記載箇所
1	治水	メール	河川整備に伴う洪水対策について、流下断面を確保することは基本であると思われることから、望ましい。（意見）	引き続き、河道内に堆積した土砂の掘削等を実施し、河川の流下断面の維持に努めます。	無	—
2		住民意見交換会	下流域は溢れて浸水しやすい。南区（※浜丁橋周辺の右岸）は位置的要因から、大雨の際に浸水が起きていると思う。（確認）土砂を掘削してもすぐ堆積して水が溢れてしまうのは何十年も変わらないので、浸水は無くならないような気がするかどうか。（意見）	近年の浸水被害は内水氾濫が要因であり、支川や水路の管理者である松崎町が行う逆流防止施設の設置等の内水対策と連携し、浸水被害の軽減を図ります。 あわせて、引き続き河道内に堆積した土砂の掘削等を実施し、河川の流下断面の維持に努めます。	無	—
3		書面	河川については内水被害がほとんどであり、最近の集中豪雨等が発生した場合、下流域問わず被害が生じるので軽減を図って行く事で良いと思う。（意見）	近年の浸水被害は内水氾濫が要因であり、支川や水路の管理者である松崎町が行う逆流防止施設の設置等の内水対策と連携し、浸水被害の軽減を図ります。 あわせて、引き続き河道内に堆積した土砂の掘削等を実施し、河川の流下断面の維持に努めます。	無	—
4		メール	内水氾濫を踏まえると、周辺の土地に余裕があれば遊水地などを併用することも一案だと思う。（意見）	流域には水田地帯もあることから、賀茂地域大規模氾濫減災協議会等を活用して松崎町や関係機関と無秩序な開発抑制の重要性を共有し、水田などの貯留機能の保全に努めるなど、流域全体で浸水被害の軽減を図ります。	無	—
5		メール	台風発生時、大沢区内では道路際まで水位が上昇し、大沢橋に流木が滞留し、大変危険な状況となる。 那賀川に流入する沢が住宅のすぐ横に位置しており、台風時には激しい勢いで岩石等が流される音が確認されるとともに、水位が氾濫に近い水準まで上昇し、毎回不安な夜間を過ごしている。検討を要望する。（要望）	河道内に堆積した土砂や、河川の流れを阻む流木等については、現場状況を確認のうえ撤去し、流下阻害の解消を図ってまいります。 那賀川に流入する大沢川については、大沢川砂防堰堤などの砂防設備を定期的にパトロールするとともに、堰堤背後の土砂の堆積状況に応じて、土砂撤去をするなど適切に管理していきます。。	有	土砂災害を整備計画へ反映 課題（2.1（1））洪水対策（P.19） 目標（3.4）洪水・津波・高潮当による災害発生防止または軽減に関する目標（P.30） 実施（4.3（2）5））流域の適正管理に関する取組（P.38）
6		住民意見交換会	山林が荒廃しており、少しの雨で川が濁る。表土の出ているところが増えており、保水力が低下しているように感じる。流木が橋に引っかかることなどが恐い。山の整備が必要ではないか、川だけでは厳しいのではないか。（意見）	土砂流出に対しては、砂防堰堤や治山堰堤の設置等の対策が考えられます。地元要望等も踏まえ、森林部局等とも連携して整備を進めてまいります。 また、賀茂地域大規模氾濫減災協議会等を活用して森林の整備・保全に関する取組状況や課題を共有し、関係機関による取組につながるよう働きかけてまいります。	有	土砂災害を整備計画へ反映 課題（2.1（1））洪水対策（P.19） 目標（3.4）洪水・津波・高潮当による災害発生防止または軽減に関する目標（P.30） 実施（4.3（2）5））流域の適正管理に関する取組（P.38）
7		住民意見交換会	具体的な浚渫箇所は計画で示すのか？（確認）	出水期前や台風後など、適切に河川パトロールを実施し、土砂の堆積状況等を踏まえ土砂撤去を行ってまいります。	無	—

No	分類	意見を いただいた方法	意見	対応	整備計画 修正 の有無	記載箇所
8	津波	住民意見交換会	7.5m の水門を作るということか。水門が閉まると水が溜まるのではないか。(確認)	河川整備計画には、「松崎町津波防災地域づくり推進計画」に基づき T.P.+7.5m の津波対策水門の設置を位置付けます。 水門は、津波が予想される場合のみ閉鎖します。水門のゲートにはフラップゲートがついた通水口を設けるなど、水門閉鎖時の排水にも対応できる構造とする予定です。	無	—
9		住民意見交換会	水門の高さは 7.5m で足りるのか。7.5m というのは水門のどのあたりを示した値なのか。防潮堤と水門閉鎖時の高さは同じになるのか。(確認)	過去に実施した L 1 津波に対する津波浸水シミュレーションでは、T.P.+7.5m までの防潮堤嵩上げ及び水門整備により、整備前と比べて浸水面積を約 90%減らす効果が想定されています。 水門を閉じたとき、カーテンウォールの上端部の高さが T.P.+7.5m になります。 防潮堤の嵩上げ後の高さ、水門のカーテンウォール上端部の高さが同一となります。	無	—
10		住民意見交換会	水門整備の位置はどこか。水門は防潮堤と接続するのか。(確認) 水門で高潮対策は可能か。(意見)	水門の位置は現在検討中です。また、水門は海岸防潮堤と接続する構造となります。 今回整備する水門は津波対策が目的です。	無	—
11		住民意見交換会	防潮堤はいつ頃完成なのか。(確認)	現時点では完成見込み時期は未定ですが、令和 6 年度工事では全長 730m のうち約 60m で嵩上げが完了しました。引き続き整備を進めてまいります。	無	—
12		住民意見交換会	水門は過去に住民の反対意見によって休止したが、今回の整備計画により、水門整備を実施すると考えて良いのか。(確認)	河川整備計画に津波対策水門の整備を位置付け、事業推進を図るよう努めてまいります。	無	—
13		住民意見交換会	反対意見が出たら、水門の設置は無くなるのか。水門の整備は最終決定ではないのか。(確認)	河川整備計画の策定をもって、水門整備が位置付けられるものと考えます。	無	—
14		住民意見交換会	以前、反対意見の中で景観の観点について意見が挙がっていたが、景観への配慮はあるのか。(確認)	水門の設計においては、松崎町景観計画や、ふじのくに色彩デザインガイドライン等を参考に検討を進めます。	無	—
15		住民意見交換会	景観より水門完成までの期間を短縮させることが重要と考える。震災発生時の状況によっては、液状化等で避難も困難になることが予想される。津波を防ぐことを最優先に考えるべきだと感じる。(意見)	早期に河川整備計画を策定し、津波対策水門の整備を進めるよう努めてまいります。	無	—
16		メール	今の状況で南海トラフ地震が発生し津波が来れば、町全体が被害を受け、復興費用は水門整備の費用を超えるだろう。予定している水門の規模より小さい水門でもよいので、いち早く整備するほうが、良いのではないか。(意見)	早期に河川整備計画を策定し、津波対策水門の整備を進めるよう努めてまいります。	無	—

No	分類	聴衆方法	住民意見	対応	整備計画 修正 の有無	河川整備計画本文への反映（案）
17	津波	メール	水門の早期の着工を望む。弁天島の方から防潮堤の事業が進んでいるが、河口の水門まで完了しないと効果が少ないと思う。緊急時に備え、一刻も早く事業を進めていただきたい。（要望）	早期に河川整備計画を策定し、津波対策水門の整備を進めるよう努めてまいります。	無	—
18		書面	今後想定される南海トラフ地震を考慮し、水門については、防潮堤とともに早急に計画を立て作っていただきたい。（要望） 津波の高さには大小あるが、現在の松崎町では津波を防ぐ事が出来ないのが現状である。防潮堤や水門は避難の時間を作る事ができ、小さな津波なら防ぐ事が出来る。高齢者や夜間などの避難時に多少時間を作ることができると思うが、今の松崎町では小さな津波でも防ぐ事ができない。 津波被害の復旧には、膨大な年月と費用がかかると想定される。年月がかかる場合、住民はもどってくるのか。現状の松崎町については、津波を防ぐ事が出来ない上に安心して住むことが出来ない町だと思う。（意見）	早期に河川整備計画を策定し、津波対策水門の整備を進めるよう努めてまいります。	無	—
19		口頭	沼津の水門（びゅうお）はいくらなのか。（確認）	建設当時の価格で約 40 億円で施工しました。	無	—
20	環境	メール	工事に際しては、汽水域等生物にとって有益な状態があるのであれば、棲息状況も考慮して、画一的な流下断面とするのでは無く、もとより余裕のある箇所は現状維持とするなど変化に富んだ、流れに委ねる河川を目指していただきたい。 自然豊かな河川を、後世に繋げていただきたい。（要望）	河川整備にあたっては、良好な自然環境を保全・創出できるよう、配慮してまいります。	無	—